

大型MICEの計画を形に！ 沖縄・東海岸の未来を拓く！！



記者のメモ



MICE計画 前へ前へ

○…県議会一般質問で、地元の与那原町と西原町にまたがるマリンタウン地区の大型MICE計画を取り上げた徳田将仁県議（自民・無所属、島尻・南城市区）。大幅な進捗遅れや入札不調などの現状を厳しく追及し、同じ与那原町出身の照屋義実副知事から「計画通り進めることに変わりはない。不動の決意と受け止めていただきたい」との答弁を引き出した。「地域振興のため、とにかく前に進めたい。県も覚悟を持ってお願いします」と、地元の代表として言葉に熱がこもった。

東にはないか

○…県議会総務企画委員会で交通政策をたじた徳田将仁県議（沖縄自民・無所属の会）。離島住民の交通コスト負担軽減事業について「島によっては交通費が高いところもある。もう少し補助をするべきだ」と離島住民をおもんばかった。一方、本島への鉄軌道導入計画で、県が説明した那覇一名護間を結ぶ案に「東側は（通って）ないってことですか」とぼつり。離島振興に目を向ける傍ら、東海岸の経済発展を訴える身として、聞き捨てならなかった様子。

記者席

令和6年第2回沖縄県議会(定例会)

大型MICE施設と共に、 スムーズな道を！！

問 MICEイベント時の交通渋滞の予測はどのようになっているか。これまでに調査・検討している内容と調査時期(年度)を踏まえて具体的に教えていただきたい。また、自動車以外的大量輸送手段として公共交通の整備が不可欠ですが、鉄軌道やバスなど大量の来訪者を効率的に輸送できる公共交通の具体的な整備計画についてお聞かせください。

答 企画部長

令和2年度から令和3年度にかけて、大型MICE施設への交通状況を把握するため、交通シミュレーションのモデル構築に係る調査を行った。さらに令和4年度から令和5年度にかけては、同モデルを活用し、与那原バイパス、国道329号の2つの路線における大型MICE施設の大規模イベント時の交通渋滞予測のシミュレーションを行いました。同シミュレーションの結果、与那原バイパスの南風原北インター付近から与那原北交差点までの区間の所要時間が、イベント開始前の与那原向きで、通常4分かかるところが7分程度に増える結果となっており、イベント終了後の那覇向けの所要時間は、通常4分かかるところ6分程度に増える結果となった。国道329号の南風原北インター付近から与那原交差点までの区間の所要時間については、イベント開始前の与那原向きで、通常3分かかるところ6分程度増える結果となりましたが、イベント終了後の那覇向きは大きな変化は生じない結果となっている。

答 文化観光スポーツ部長

去る6月25日に入札公告した沖縄県マリンタウン国際会議・大型展示場整備運営等事業で、大型MICE利用者によるシャトルバス、タクシー等の乗降場及び一時待機場としての機能を有する交通ターミナルを整備することとしている。また、交通ターミナルから大型MICE施設にペDESTリアンデッキで接続すること、公共交通機関等の利用者の利便性を高めることとしております。

問 大型MICE施設への再生可能エネルギーの導入活用

最大限に取り組んでいただきたい。具体的な導入・活用計画を伺いたい。

答 知事

大型MICE施設については、令和6年6月に公表いたしました要求水準書において、再生可能エネルギー等の導入を推進し、資源循環等に配慮した施設とすることを定めております。具体的には、省エネルギー化と再生エネルギーの導入によって、従来よりも30%以上一次エネルギーの消費量を減らすZEBオリエンテッド以上の水準を求めたものであります。沖縄県としては、与那原町が進める脱炭素の取組と連携し、サステナブル。持続可能な施設整備に取り組み、国際的なMICE開催地としてのブランドの構築を同時に図ってまいります。

浄化の一步が、未来を変える。

問 東浜水路の管理は沖縄県か、それとも与那原町、西原町の市町村が管理するのか教えていただきたい。また、マリンタウンMICEエリアまちづくりデザインでは、東浜水路をブルーパスと位置づけ、水辺の回廊空間の創出を計画している。沖縄県として具体的な整備計画があるのか伺いたい。

答 土木建築部長

MICEエリアの観光客受入れ環境改善のため、大型MICE施設の供用開始に合わせて、沖縄県で水路のしゅんせつを実施することができないのか伺いたい。

中城湾港西原与那原地区内の公有水面については、沖縄県の管理となります。当該公有水面については、与那原町、西原町及び県の三者で構成するマリンタウン内水路保全・利活用推進協議会において、土砂流入や悪臭などの水質浄化に係る課題が確認されており、県として積極的に協議に参加し、意見交換を行なっていききたいと思っております。

提言

現在の水路は土砂やヘドロが堆積していて、干潮時に悪臭の発生要因となる為、観光資源としてはまだまだ十分に活用できない状況にある。そして、悪臭は近隣住民の生活へも悪影響を及ぼしているため、与那原町も水路水質改善のために下水道接続補助金制度を創設して下水道の普及に鋭意取り組んでいると聞いている。やはりその問題を根本的に解決するにはしゅんせつが不可欠になります。両町任せではなく、管理者である沖縄県自身がしっかりと舵取りをお願いしたい。

一般質問動画は
コチラ!!



check



大型MICE施設、諦めず再始動!!

問今回、整備運営事業の入札の不調がないように頑張ってきたと思う。しかし、仮に参加表明がなかった場合、スムーズに事業が進むような計画案というのは立てていなかったのか。

答文化観光スポーツ部長

今回、残念ながら入札不調というふうな結果になった。当然ながらこれまで事業者とのサウンディングや専門委員会等での意見も聞いて、入札が実施できるところまで来ましたが、ただ、昨日、やはり大きかったのは、コロナ禍を経て状況が大きく変わってしまったというところは事業者のほうも述べていた。今回不調になったことを踏まえて今後はしっかりと検証し、二度と入札不調が生じないように取り組んでいきたいと思っております。

問このMICEについては、やはり地元はとにかくもう前に歩かせたい。とつても必死なんですよ。今まで相当なお金も使ってきました。私たちには県が覚悟を持って事業を行っているかが全然伝わってきいていないんですよ。地元がどんな気持ちでこの場所を提供して、そしてどんな気持ちでこの10年を過ごしているのかをしっかりと必死になって考えてください。そこでお聞きしたいんですけれど、事業条件の検証も何が問題かまだ見えない状況。そして、MICE施設周辺の広大な土地も提案がなかった現状。いま一度MICE施設の在り方を見直す時期にあると思う。県としてどう考えるか。

答知事

今般、有識者で構成する委員会が事業手法、事業範囲、事業効果、それからホテルの整備手法等、検証させていただきたいと思っております。沖縄県としては、新・沖縄21世紀ビジョン基本計画で、魅力あるまちづくりを推進する、それは大型MICE施設を中心とするということもしっかりとされている。またサンライズベルト構想の中では、核となる施設となることは間違いなくと思います。ですから、県としても与那原、西原、両自治体ともしっかりと議論をして、目に見える形で事業者が参画できるようにしっかりと検証をしていきたいと思っております。

問この場所は、平成8年に協定書を交わして、当時の大田知事と与那原町長がABC方式で与那原町が使用したいときは優先して考慮すると言って与那原町と協議を交わした場所ですよ。こんな10年も放置して、放置車両の管理も地元で任せておいて、いきなり大規模な金網も設置して、県もMICE施設に向けてもう74億も使っているでしょう。これ以上無駄

なお金は使わないでくださいよ。地元出身である副知事どうお考えですか。

答副知事

この大型MICEの与那原への招致につきましては、私も商工会長として在任中から精力的に当時の古堅町長と一緒に取組んできた大きな課題でございました。総決起大会も何度もやりましたし、町民の集いにも参加する、シンポジウムをやる、その他様々なイベントを重ねて、県土の均衡ある発展という観点から、仲井真県政から引き継いだ翁長前知事が決断したというふうな経緯がありました。図らずも私は今こういふふうな立場で、それを推進する立場に立って2年半携わったわけでありまして、けれども、推進するに当たって、これからのいよいよ勢いつ

港町の誇りを未来へ! 更に進化する与那原!!



与那原町

けてというところでもこのようにな事態になったのは非常に残念に思っておりますし、少なからず私もショックを受けているわけでありまして、経営は変化への対応というふうになっております。したがって、何かへ変化する条件に合わせてしっかりと今までの計画どおり進めていくことに変わりはありませぬ。デニー県政の不動の決意というふうには受け止めていただいていると思っております。私も一生懸命頑張っております。

県民が住み慣れた家に手助けを。

問沖縄県住宅ストック活用市町村助成支援事業補助金交付要綱では、令和7年度までしか記載がないが、

令和8年度以降も継続して実施市町村へ補助金交付をしていくのか。補助率についても2分の1から5分の1へ年々低下しているが、補助率を上げる考えはあるのか。

答土木建築部長

沖縄県住宅ストック活用市町村助成支援事業は、民間住宅の省エネ改修、バリアフリー化、耐久性向上工事などのリフォームへの支援に取り組む市町村に、県が補助するものであります。本事業は、需要が高く、実施市町村からの継続要望もことから、必要性について県も認識しております。令和8年度以降の継続及び補助率については、現事業の効果等を検証し、検討していきたいと考えております。

動き出せ!!

県道糸満与那原線。

問6月議会で言っていた地元自治体との意見交換は行ったのか。またその結果は。

答土木建築部長

県道糸満与那原線バイパスについては、これまで検討したルート案について、去る8月22日に南城市、同月30日に与那原町と意見交換を行ったところでありまして、整備効果等については土木建築部としても重要な道路であると認識をしております。現在、早期事業着手に向けて、地元と調整を行っている段階でございます。今後とも取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

提言

これまで何度も申し上げているが、この糸満与那原線バイパスは、この場所に糸満までの道ができるので協力してくれと言って、港区という地域を分断して協力してもらって道を開けました。その後、平成21年から何一つ変わらない現状で、私たちも地元の方々から再三どうなっているのかとずっと長年言われ続けているんです。その当初の約束をただしっかり守ってほしいと訴えているだけ。MICE施設が迷惑施設にならない様、早期整備を求めます。

大型MICEの起爆剤! マリントウン・ベイサイド・ビスタ。

問与那原町は令和3年から譲渡要請をしている。今年も11月13日に与那原町から譲渡要請があったと思う。当該地区は平成17年に埋立竣工認可を受けた、陸地とみなされて約20年が経過しています。与那原町としては一日でも早く、MICEエリア形成事業基本計画に沿った市街化形成を望んでいる。県の整備計画では常に未定である。今後どのように県として対応するのか。想定される内容も含め具体的に伺いたい。この際、与那原町に任せてはどうかも伺いたい。

答文化観光スポーツ部長

県は、現在、事業者へ参加表明に至らなかった理由の聞き取りとMICE需要調査等を実施しております。今後、調査結果等を踏まえ、有識者で構成する委員会にて要請のある地区を含む事業範囲等を検証し、その結果を与那原町を含む関係4町村で構成する東海岸地域サンライズ協議会と共有の上、マリントウンMICEエリアのまちづくりの在り方及び当該土地の適切な活用方法について検討してまいります。当該県有地を現行どおり、大型MICE施設整備の事業範囲とする場合と事業範囲としない場合について検討し、事業範囲としない場合は、町への譲渡について所管する部局と調整し検討していきたいと考えております。

提言

県も地元自治体も、このエリアに対して多額の予算と時間を投入している。県の構想に沿ってしっかりと地元が進めていくと言っていますので、お金を生まない現状。しっかりと地元が進めていくと言っているんだから、いつまでも放っておかないでお金を生み出して、周辺地域に波及効果を生み出して、そんな地域を先につくってMICEを含めた周辺地域の経済基盤の呼び水にしていくと、与那原の深い覚悟がある。そういった地元の意思を酌み取っていただきたい。

